海外レポート	**台湾　台北**

「経済効果抜群の台湾ランタンフェスティバル」

歐　元韻

今年は広島台北間の直行便も再開され、いよいよ広島を含めた日本各地と台湾との交流が活気づく気配を見せ始めています。そのことを象徴する台湾の伝統イベント「２０２３台湾ランタンフェスティバル」が今年も実施され、2月５日から１９日までの期間、台北市の国父記念館をメイン会場として開催されました。

第 34 回目となる今年のランタンフェスティバルは、まだ全面的な解放には至っておりませんが、コロナ鎮静化の兆し後では実質、始めて諸外国に門戸を開いた大型イベントとなり、各業界からの関心度も高く、大いに盛り上がりました。国際的には色々と心配なニュースも多い２０２３年のスタートでしたが、今回のランタンフェスティバルに参加して改めて、そのテーマである「光源台北」という言葉を実感しました。意味を要約すると、「人類が目指すべく未来に繋がる道筋を、台北から希望の光をもって照らし、光輝かせることで多くの人々に希望の未来を目指して欲しい」との熱いメッセージが込められています。様々な工夫を施したランタンが夜の街を彩り、日本を含めた諸外国の舞踏団がストリートやステージで精一杯踊り、多くの人達が国を越え、同じ空間を共有しながら笑顔でその時を楽しんでいる様子は、まさに未来の希望の世界を思わせてくれるほど伝統的かつ平和色に溢れたお祭りです。来年は是非、広島からもより沢山の方々にお越しいただきたい、お勧めのイベントです。

【会場写真】

＜ドル箱スターとしてのランタンフェスティバル＞

ここではランタンフェスティバルがもたらす経済効果について少し触れておきます。ランタンフェスティバルを観賞する為に多数の人達が動くことで、交通、宿泊、外食等、様々な分野で需要が増加し、経済の活性化につながります。こうした状況から台湾の業界関係者の間では、ランタンフェスティバルのことをドル箱スターに倣い、別名「スーパー自動チケット販売機」と称しています。これはランタンフェスティバルには、台湾の人達が黙っていても次々とお金を投じる、いわゆる自動券売機にお金を投じて次々とチケットが販売されていく様子に似ていることから、関係者の間で広まった冗談だとマスコミでも取り上げられるほど、その経済効果は絶大です。

ここ数年のランタンフェスティバルでは、開催期間中の観賞者数は毎年ほぼ１千数百万人以上を記録し、関係者が算出する経済的産出価値は、１６０億台湾元（日本円約 708 億円）から 200 億台湾元（日本円約 886 億円）規模の効果をもたらすとの見方です。参考として、以下に台湾の報道機関が発表した、ここ数年間におけるランタンフェスティバル経済効果関連数値を簡単にまとめてみました。

年	開催地	観賞者数	経済産出価値高
2020	台中市	1,182 万人	118 億台湾元
2021(※)	新竹市	中止	中止
2022	高雄市	1,200 万人	160 億台湾元
2023 (目標値)	台北市	1,000 万人	210 億台湾元

【ランタンフェスティバル開催状況】

※1 台湾元＝4.43 円

※2021 年はコロナ禍により中止

＜外交大使としてのランタンフェスティバル＞

台湾のランタンフェスティバルには毎年、各国からの特色あるランタン作品が会場内に展示され、ご当地観光 PR に努めております。特に日本からは毎年、多数の地方自治体作品が一堂に会し展示されます。今年も北海道（札幌市、函館市）、青森県（弘前市）、秋田県（湯沢市）、宮城県、福島県、岐阜県（郡上市）、茨木県（笠間市）、愛知県（名古屋市）、島根県、愛媛県（松山市）、香川県、高知県、佐賀県及び近鉄、東武鉄道といった交通機関からの出品作が会場に彩りを添えております。また新北市では、東京観光財団によるランタン作品の展示、高雄市では熊本県代表団が高雄ランタン会場にて市政府関係者と今後の相互交流促進を確認しあいました。

＜広島のランタンご当地 PR に期待＞

今年はコロナが落ち着いたこともあり、ランタンフェスティバルのこの時期、日本から多数の地方自治体関係者が台湾を訪れました。なかでも茨木県は、ランタン会場近くで物産展も大々的に開催し、茨城県産冷凍野菜を大手百貨店に設置した自動販売機で販売するなど、その新しい試みで世間の話題をさらっています。私個人としては、来年は先ずカープ坊やのランタン作品が登場し、広島のお好み焼きが自動販売機で販売されることに密かに期待しています。